

# Kansai Economic Insight Monthly

2020/4/24

Vol.84 March/April

▼ APIR “Kansai Economic Insight Monthly”は、関西経済とそれに関連する中国経済の動向に関する分析レポートです。

▼ レポート公開時期は毎月第4週を予定しています。

▼ 執筆者は、稲田義久(甲南大学教授、APIR 研究統括兼数量分析センター長)、木下祐輔(APIR 調査役)、豊原法彦(関西学院大学教授)、郭秋微(APIR 研究員)、野村亮輔(研究推進部員)、吉田茂一(研究推進部員)、車競飛(APIR インターン)です。

▼ 本レポートにおける「関西」は、原則として滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の2府4県です。統計出所を発表している省庁などが「近畿」としている場合も「関西」に統一しています。

## 目次

|                   |    |
|-------------------|----|
| 要旨                | 1  |
| 関西経済のトレンドとCI, CLI | 2  |
| 景気の現況             | 3  |
| 関空モニター            | 10 |
| 中国景気モニター          | 11 |
| 主要月次統計            | 16 |
| Release Calendar  | 17 |

## 要 旨

### - 景気は足下悪化・先行きも悪化を見込む -

- ✓ 2月の生産は3カ月ぶりの前月比マイナス。生産は依然低調で推移している。このため、近経局は基調判断を「生産は弱含み傾向」と前月から下方修正した。
- ✓ 3月の貿易収支は2カ月連続の黒字だが、前月と比べて黒字幅は縮小している。輸出が減少に転じ、輸入の減少幅が縮小したためである。
- ✓ 3月の景気ウォッチャー現状判断DIは2カ月連続で前月比大幅低下し、過去最低の水準となった。新型コロナウイルスの感染拡大により業種を問わず落ち込みが目立った。
- ✓ 1月の関西2府4県の現金給与総額は名目で6カ月連続、実質では11カ月連続で前年比減少。所得環境は依然悪化している。
- ✓ 2月の大型小売店販売額は5カ月連続で前年比減少した。新型コロナウイルス感染拡大による買いだめと巣ごもり消費でスーパーは増加したが、百貨店は訪日外客数の急減で大幅減少した。
- ✓ 2月の新設住宅着工戸数は2カ月連続の前年比減少。分譲マンションは増加したが、持家と貸家の減少が大きく影響した。
- ✓ 2月の有効求人倍率は2カ月連続で前月から悪化。求人票の記載項目の増加と新型コロナウイルス感染拡大の影響で求人数が減少したため。完全失業率も3カ月連続で悪化した。
- ✓ 2月の建設工事出来高は24カ月連続の前年比プラスだが、伸びは減速している。一方、3月の公共工事請負金額は2カ月ぶりの同増加となった。
- ✓ 新型コロナウイルス感染拡大により、3月の関空への外国人入国者数は前年比-95.1%と2カ月連続の大幅マイナス。世界的な移動制限により渡航に対しては高水準の警戒が続こう。
- ✓ 1-3月期中国のGDPは四半期統計が利用可能な1992年以降で初めてのマイナス(前年同期比-6.8%)となった。足下、生産停止による供給不足は徐々に解消しているが、世界経済の後退による外需の縮小は今後一層中国経済下押し要因となろう。

## 【関西経済のトレンド】

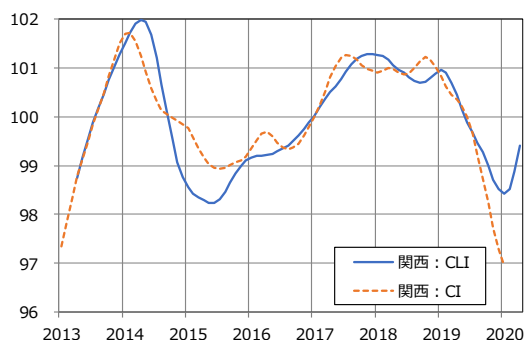
|        | 2019年 |    |    |    |    |    |    |     |     |     | 2020年 |    |    |
|--------|-------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-------|----|----|
|        | 3月    | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月    | 2月 | 3月 |
| 生産     | ↗     | ↖  | ↖  | ↗  | ↖  | ↗  | ↖  | ↗   | ↗   | ↖   | ↖     | ↗  |    |
| 貿易     | ↗     | ↗  | ↗  | ↘  | ↘  | ↗  | ↘  | ↖   | ↖   | ↘   | ↖     | ↖  | ↖  |
| センチメント | ↗     | ↘  | ↗  | ↘  | ↗  | ↖  | ↖  | ↗   | ↘   | ↘   | ↘     | ↗  | ↗  |
| 消費     | ↘     | ↘  | ↘  | ↘  | ↗  | ↘  | ↖  | ↗   | ↗   | ↗   | ↗     | ↗  |    |
| 住宅     | ↖     | ↗  | ↗  | ↘  | ↖  | ↗  | ↗  | ↘   | ↗   | ↖   | ↗     | ↘  |    |
| 雇用     | ↘     | ↖  | ↗  | ↗  | ↗  | ↗  | ↘  | ↗   | ↗   | ↖   | ↗     | ↗  |    |
| 公共工事   | ↗     | ↘  | ↖  | ↖  | ↘  | ↖  | ↖  | ↖   | ↖   | ↘   | ↖     | ↗  | ↖  |
| 中国     | ↘     | ↗  | ↗  | ↘  | ↗  | ↗  | ↘  | ↗   | ↘   | ↘   | ↗     | ↗  | ↗  |

(※トレンドの判断基準)

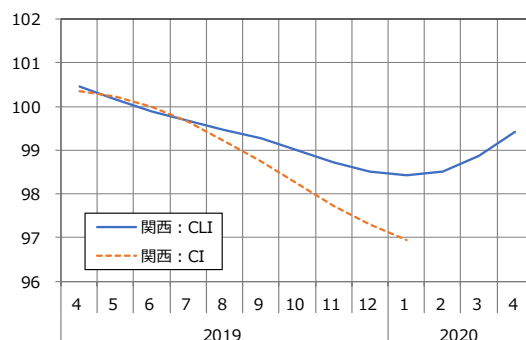
- ・**生産**：近畿経済産業局『近畿地域製造工業生産動向』生産指数(季節調整値)が前月比+0.5%以上であれば上向き、同-0.5%未満であれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・**貿易**：大阪税関『貿易統計』の近畿圏貿易収支(入出超額)前年同月から500億円以上の改善は上向き、同500億円以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・**センチメント**：内閣府『景気ウォッチャー調査』の近畿現状判断(方向性)DIが前月比で1ポイント以上の改善は上向き、1ポイント以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・**消費**：近畿経済産業局『大型小売店販売状況』(全店ベース)が前年同月比で1%以上増加していれば上向き、同1%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・**住宅**：国土交通省『住宅着工統計』新設住宅着工戸数が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・**雇用**：厚生労働省『一般職業紹介状況』有効求人倍率(季節調整値)が前月比で0.01ポイント以上の改善は上向き、変化がなければ横ばい、0.01ポイント以上の悪化は下向きとする。
- ・**公共工事**：西日本建設業保証株式会社『公共工事前払金保証統計』公共工事請負金額が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。

## 【関西の景気動向指数(CI一致指数・試作 CLI)の推移】

CI一致指数・試作 CLI の推移(2013年1月～2020年4月)



直近1年間のCI・CLIの推移(2019年4月～2020年4月)



(注)指数は2013年1月～2020年1月までのデータで計算されており、2月以降明らかになった新型コロナウイルスの影響は反映されていないことに注意。

## 【鉱工業生産動向】

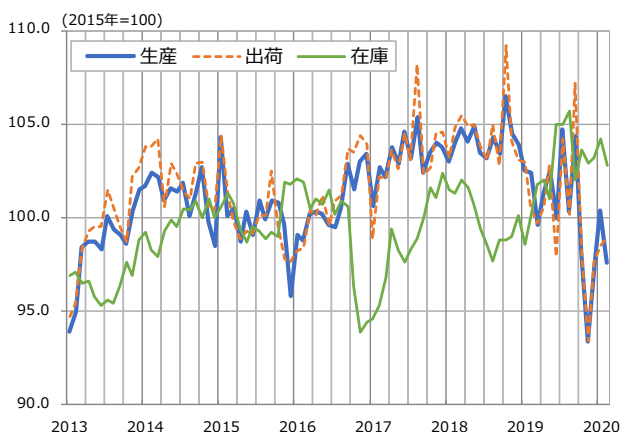
### (1) 関西の生産動向

関西 2 月の鉱工業生産動向(速報値: 季節調整済、2015 年=100)を見ると、生産は 97.6 で前月比-2.8%と、3 カ月ぶりに低下した。出荷は 99.0 で同+0.5%と、3 カ月連続で上昇した。在庫は 102.8 で、同-1.3%と 3 カ月ぶりに低下。生産は依然として低調で推移していることから、近畿経済産業局は同月の基調判断を、「生産は弱含み傾向」と前月から下方修正した。

2 月の生産指数を業種別にみると減産となったのは、化学工業(除、医薬品)(同-10.0%、2 カ月ぶり)、汎用・業務用機械工業(同-8.2%、4 カ月ぶり)、輸送機械工業(同-7.7%、3 カ月ぶり)等であった。一方、増産となったのは、金属製品工業(同+12.5%、2 カ月ぶり)、電子部品・デバイス工業(同+13.2%、2 カ月ぶり)、電気・情報通信機械工業(同+2.3%、2 カ月ぶり)等であった。

1-2 月平均の生産は 10-12 月期平均比+2.7%上昇した(10-12 月期は前期比-6.6%)。なお、生産と強い関係がある日銀の実質輸出(季節調整済、2015 年=100)を見ると、2 月(確報値)は 109.0 で前月比+3.4%と 2 カ月ぶりのプラスとなった。

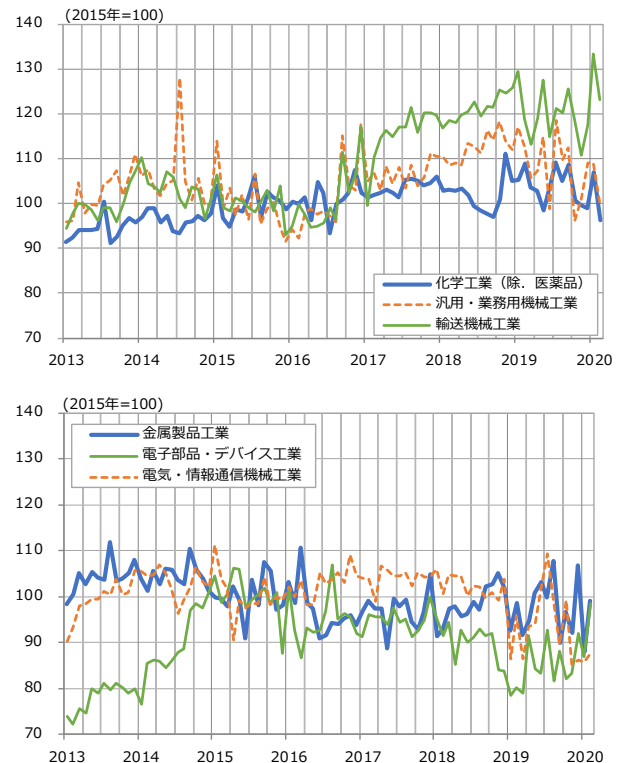
関西の鉱工業生産動向の推移(2013 年 1 月~20 年 2 月)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

関西の業種別生産指数の推移(2013 年 1 月~20 年 2 月)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

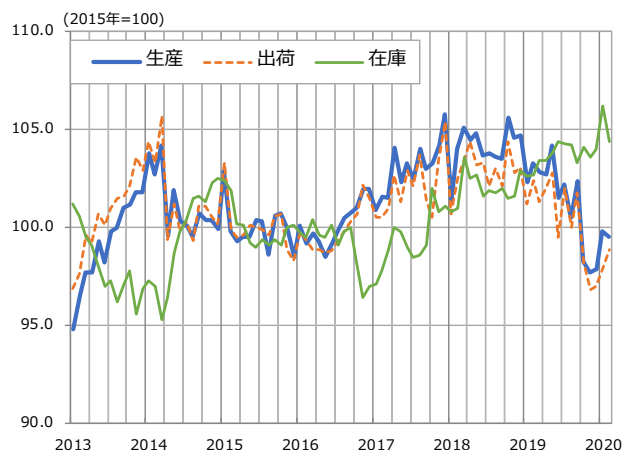
### (2) 全国の生産動向

全国 2 月の鉱工業指数(確報値: 季節調整済、2015 年=100)を見ると生産は 99.5 で前月比-0.3%と 3 カ月ぶりに低下した。出荷は 98.9 で同+1.0%と、3 カ月連続で上昇。在庫は 104.4 で同-1.7%と、3 カ月ぶりに低下した。

2 月の生産指数を業種別にみると減産となったのは、自動車工業(前月比-4.4%)、生産用機械工業(同-5.0%)、輸送機械工業(除、自動車工業)(同-9.4%)等であった。一方、増産となったのは電子部品・デバイス工業(同+8.3%)、無機・有機化学工業(同+6.2%)、鉄鋼・非鉄金属工業等(同+2.5%)等であった。

1-2 月平均生産は 10-12 月期平均比+1.7%上昇した(10-12 月期は前期比-3.7%)。なお、製造工業生産予測調査(速報値ベース)によると、3 月は前月比-5.3%と減産が、4 月は同+7.5%と増産が予測されている。

全国の鉱工業指数の推移(2013年1月～20年2月)



(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

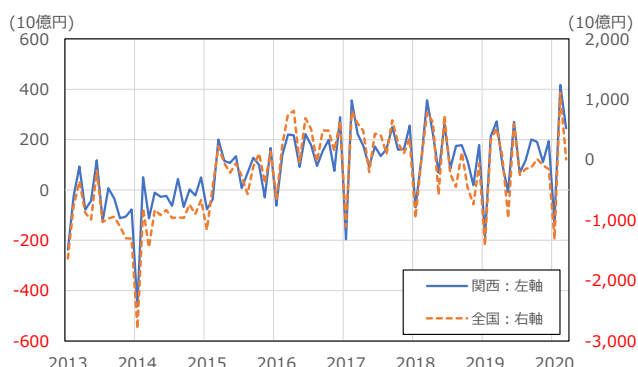
## 【貿易動向】

### (1) 純輸出

貿易概況(速報値)によれば、関西 3 月の貿易収支は +2,455 億円と 2 カ月連続の黒字だが、前月と比べて黒字幅は縮小している。輸出が減少に転じ、輸入の減少幅が縮小したため。輸出入の合計である貿易総額は同-4.8%と 6 カ月連続で減少した。昨年 9 月を除けば、2018 年 12 月から連続で縮小している。

全国の貿易収支は+49 億円で 2 カ月連続の黒字だが、前年同月比-99.0%縮小した。貿易総額は 11 カ月連続で縮小している(同-8.5%)。

関西・全国の貿易収支の推移(2013年1月～20年3月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

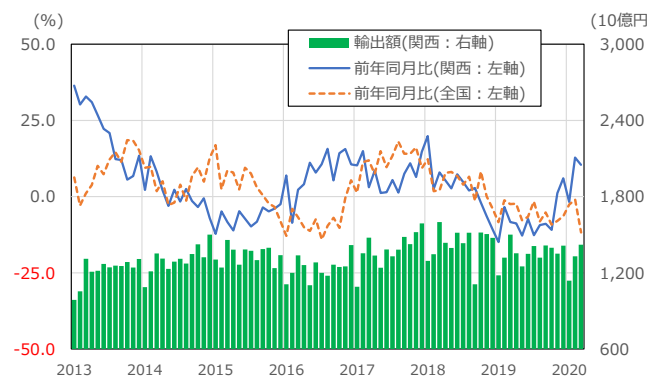
### (2) 輸出

関西 3 月の輸出額(速報値)は 1 兆 4,218 億円で前年同月比-5.3%と 2 カ月ぶりの減少。財別にみれば、主に建設用・鉱山用機械、半導体等製造装置等が減少した。

日銀の実質輸出(季節調整値、2015 年平均=100)によると、3 月(速報値)は 112.7 で前月比+3.4%となり、2 カ月連続のプラスとなった。結果、1-3 月期の実質輸出は前期比-1.1%減少し、2 四半期連続のマイナス。

全国 3 月の輸出額(速報値)は 6 兆 3,579 億円で、前年同月比-11.7%と 16 カ月連続の減少。財別にみれば、主に自動車、船舶、自動車の部分品等が減少した。

関西・全国の輸出の推移(2013年1月～20年3月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

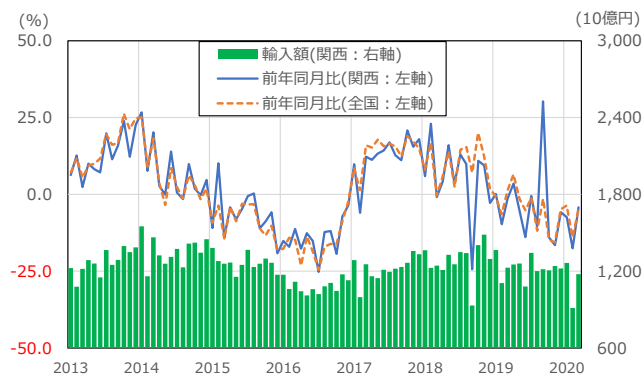
### (3) 輸入

関西 3 月の輸入額(速報値)は 1 兆 1,763 億円で、前年同月比-4.2%減少し、6 カ月連続のマイナス。財別にみれば、主に医薬品、非金属鉱物製品が減少した。

日銀の実質輸入(季節調整値、2015 年平均=100)によると、3 月(速報値)は 103.5 となり、前月比+14.3%の大幅増加、3 カ月ぶりのプラスとなった。結果、1-3 月期の実質輸入は前期比-4.4%減少し、2 四半期連続のマイナス。

全国 3 月の輸入額(速報値)は 6 兆 3,529 億円で、前年同月比-5.0%と 11 カ月連続の減少であった。財別にみれば、石炭、液化天然ガス、原油等が減少した。

関西・全国の輸入の推移(2013年1月～20年3月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

#### (4) 関西の地域別貿易

関西 3 月の貿易収支を地域別にみると、対アジア(含中国)の貿易収支は+2,788 億円と 2 カ月連続の黒字となったが、黒字幅は前月(+4,336 億円)から大幅に縮小した。輸出額(9,468 億円)は前年同月比-2.4%と 2 カ月ぶりのマイナスとなった。財別にみれば、半導体等製造装置、建設用・鉱山用機械が減少した。また、輸入額(6,680 億円)は同-4.7%と 6 カ月連続のマイナスとなった。財別にみると、主に衣類及び同附属品、医薬品等が減少した。なお、医薬品については、後発医薬品の主要輸出国であるインド政府が、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて原薬・製剤の輸出制限を行うなど、医薬品業界の物流に大きな影響が出たようである(4 月 8 日までに一部を除き、制限は解除された)。

対中貿易収支は-139 億円と 2 カ月ぶりの赤字となった。前月は新型コロナウイルスの影響で輸入の大幅減少(同-55.6%)が影響し黒字に転化した。今月は再び赤字に戻った。輸出額(3,507 億円)は同-0.2%と 2 カ月ぶりに小幅のマイナスとなった。財別にみると、主に半導体等製造装置、非鉄金属等が減少した。一方、輸入額(3,646 億円)は同-1.0%で 6 カ月連続のマイナス。財別にみると、衣類及び同附属品、家庭用電気機器等が減少した。

対米貿易収支は+689 億円の黒字となった。輸出額(1,889 億円)は同-9.1%と 2 カ月ぶりのマイナス。財別にみれば、建設用・鉱山用機械、原動機等が減少した。輸入額(1,200 億円)

(は同-3.3%と 2 カ月ぶりのマイナス。財別にみれば、原油及び粗油、半導体等製造装置等が減少した。

対 EU(英国を除く 27 カ国ベース)貿易収支は+175 億円と 2 カ月連続の黒字。輸出額(1,412 億円)は前年同月比-10.8%と、6 カ月連続のマイナス。財別にみれば、事務用機器、通信機等が減少した。輸入額(1,236 億円)は同-11.4%と、3 カ月ぶりのマイナス。財別にみれば、医薬品、有機化合物等が減少した。

#### 【消費者センチメント】

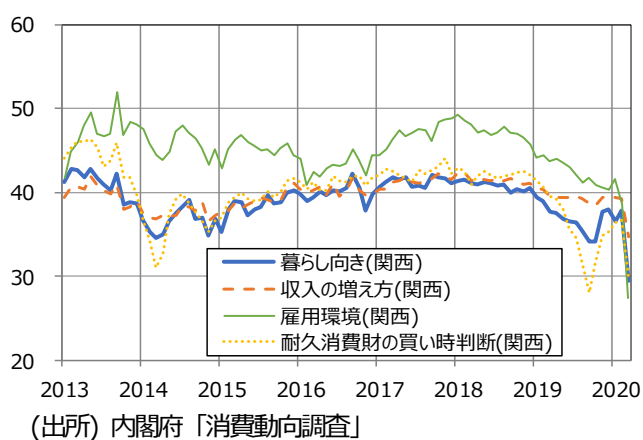
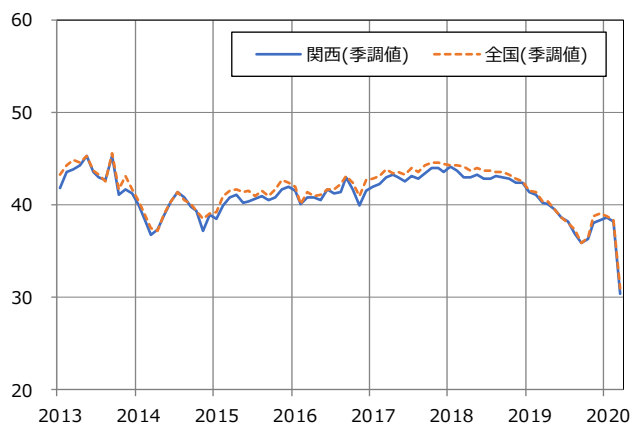
##### (1) 消費者態度指数の動向

関西3月の消費者態度指数(季節調整値:APIR 推計)は30.4 と前月比-7.8 ポイントと、2 カ月連続で低下した。単月の低下幅としてはリーマンショック期の同-1.8ポイント(2008 年 12 月)、東日本大震災直後の同-3.3 ポイント(2011 年 4 月)よりも大きい。同指数構成項目 4 指標すべてが前月より低下した。雇用環境指数(27.3)は前月比-11.3 ポイント(2 カ月連続)、暮らし向き指数(34.7)は同-8.4 ポイント(2 カ月ぶり)、耐久消費財の買い時判断指数(29.8)は同-6.9 ポイント(6 カ月ぶり)、収入の増え方指数(34.7)は同-4.5 ポイント(3 カ月連続)で、いずれも悪化した。

全国(季節調整値)は 30.9 と前月比-7.4 ポイントと 3 カ月連続で低下した。現在の調査方法となった 2013 年 4 月以降では最も低い水準となった。同指数構成項目 4 指標すべてが前月より低下した。雇用環境指数(27.9)は前月比-11.6 ポイント(2 カ月連続)、暮らし向き指数(30.0)は同-7.5 ポイント(3 カ月連続)、耐久消費財の買い時判断指数(31.0)は同-5.4 ポイント(6 カ月ぶり)、収入の増え方指数(34.8)は同-4.9 ポイント(3 カ月連続)と、いずれも悪化した。結果、内閣府は基調判断を「悪化している」と 2 カ月連続で下方修正した。関西、全国ともにセンチメントの悪化幅が拡大している。



消費者態度指数の推移(2013年1月～2020年3月)

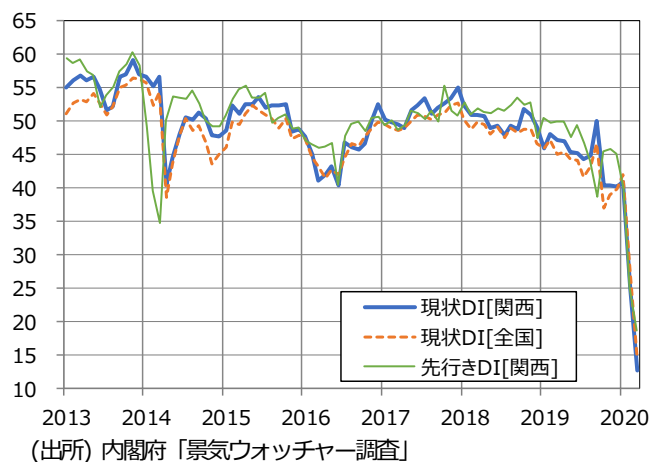


## (2) 景気ウォッチャー指数の動向

関西 3 月の景気ウォッチャー現状判断 DI(季節調整値)は 12.7 と前月比-12.4 ポイントと 2 カ月連続で大幅低下し、比較可能な 2002 年以降で過去最低の水準となった。全国の同指数は 14.2 と前月比-13.2 ポイント大幅低下し、2 カ月連続で大幅悪化した。関西、全国ともに新型コロナウイルス感染拡大により業種を問わず悪影響がみられており、特に小売関連、外食関連やサービス関連産業の落ち込みが目立っている。

先行き判断 DI(季節調整値)は、関西で 18.6 と前月比-6.5 ポイント低下し、4 カ月連続の悪化。全国の同指数は 18.8 と同-5.8 ポイント低下し 4 カ月連続で悪化した。関西・全国とも新型コロナウイルス感染拡大による悪影響を引き続き懸念する声が多い。更に調査期間後に発令された緊急事態宣言を受け、より一層外出自粛が進むことで、一段と厳しい状況になると考えられる。

景気ウォッチャー調査の推移(2013年1月～2020年3月)



## 【所得・個人消費】

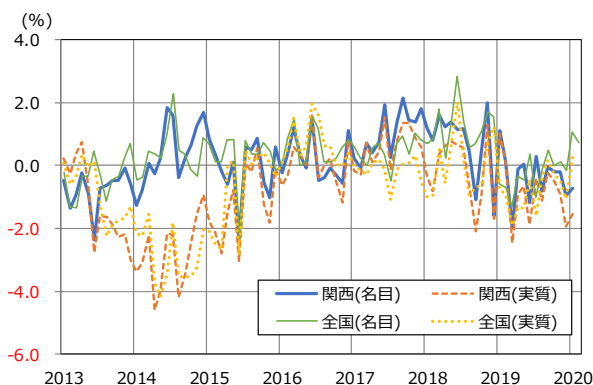
### (1) 現金給与総額

関西 2 府 4 県の 1 月の現金給与総額(APIR 推計)は 26 万 4,701 円で前年同月比-0.7%となり、6 カ月連続の減少。府県別では、滋賀県は同-6.7%(4 カ月ぶり)、京都府は同-0.8%(2 カ月連続)、兵庫県は同-0.8%(30 カ月ぶり)、大阪府は同-0.1%(11 カ月連続)と、それぞれ減少した。一方、奈良県は同+1.6%(6 カ月連続)、和歌山県は同+1.1%(6 カ月ぶり)と、それぞれ増加した。また、京都・大阪・兵庫の加重平均をとった 1 月の「関西コア」賃金指数(APIR 推計)は前年同月比-0.3%と、6 カ月連続で減少した。

また、関西 2 府 4 県の現金給与総額から物価変動の影響(持家の帰属家賃を除く総合)を除いた 1 月の実質現金給与総額(実質賃金)は前年同月比-1.5%と、11 カ月連続の減少。所得環境は依然として悪化している。

全国 2 月の現金給与総額(確報値)は、前年同月比+0.7%と、2 カ月連続の増加。内訳を見ると、所定内給与は同+0.6%と 3 カ月連続の増加。所定外給与は同-1.8%と 6 カ月連続の減少。特別に支払われた給与は同+28.9%と 2 カ月連続の増加。また、現金給与総額から物価上昇分(持家の帰属家賃を除く総合)を除いた 2 月の実質現金給与総額(実質賃金)は同+0.2%と 2 カ月連続で小幅増加した。

現金給与総額の推移(前年同月比: 2013年1月~20年2月)



(注)関西・関西コア(京都、大阪、兵庫)はAPIR 推計値。現金給与総額を当該常用労働者数(2011年平均)で加重平均。  
(出所)厚生労働省「毎月勤労統計調査」、総務省「消費者物価指数」より作成。

## (2) 大型小売店販売額

関西 2 月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は2,703 億円となり、前年同月比-4.5%と5 カ月連続のマイナスとなった。増税後の低迷に加え、新型コロナウイルスの影響拡大で3 月以降も回復する目処が立たない。

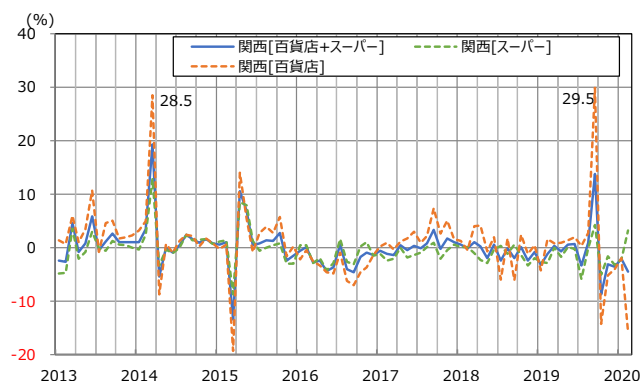
うち、百貨店は前年同月比-15.8%と、5 カ月連続のマイナス。減少幅が去年増税直後に見られた駆け込み需要の反動減(同-14.2%)を上回った。新型コロナウイルスの影響拡大による訪日外客数の大幅減少が大きく響いたことに加え、外出自粛も国内客の消費マインドを低下させた。翌月以降は更に厳しい状況が続くと予想される。スーパーは前年同月比+3.2%と5 カ月ぶりのプラス。新型コロナウイルスの影響拡大を受け、生活関連物資の買いだめと外出自粛による巣ごもり需要がプラスに働いた。

なお、3 月の関西百貨店免税売上高(日銀大阪支店)は前年同月比-92.3%大幅減少し、前月(同-71.9%)に続き、2 カ月連続で大幅なマイナス。また、件数も同-95.4%とこちらも2 カ月連続で大幅なマイナスであった。訪日外客数の大幅減少による影響が大きい。来月以降も訪日外客数及び免税売上高の大幅減少が続こう。

全国 2 月の大型小売店販売額(全店ベース)は1 兆 4,387 億円となり、前年同月比+0.3%と5 カ月ぶりのプラス。う

ち、百貨店は同-11.8%と大幅な減少となったが、スーパーは同+6.0%と3 カ月ぶりのプラス。なお、小売販売額指数(季節調整済)の前月比の3 カ月後方移動平均は+0.8%と2 カ月連続のプラス。経済産業省は基調判断を「増加している」と前月から上方修正したが、翌月以降新型コロナウイルスによる影響の拡大に注意を要する。

大型小売店販売額の推移(前年同月比:2013年1月~20年2月)



(注) 福井県を含む。(出所) 経済産業省「商業動態統計」

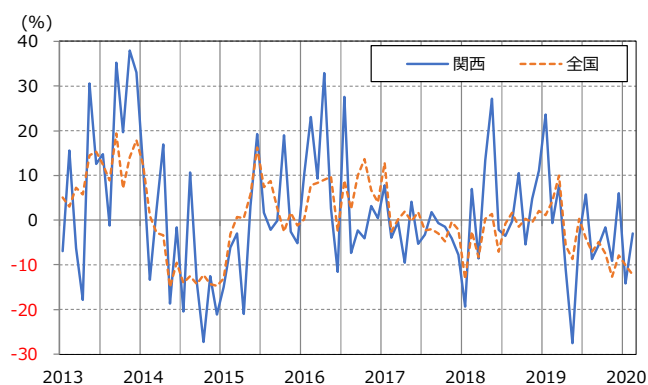
## 【住宅投資】

### (1) 新設住宅着工の動向

関西 2 月の新設住宅着工戸数は10,978 戸で前年同月比-2.9%と2 カ月連続の減少。利用関係別に見ると、分譲は4,582 戸で同+19.9%と2 カ月ぶりに増加したが、持家は2,666 戸で、同-10.0%と5 カ月連続、貸家は3,609 戸で、同-18.6%と7 カ月連続で減少した。分譲のうち、マンションは2,805 戸となり、同+38.8%と2 カ月ぶりの増加、一戸建は1,724 戸で同-3.3%と4 カ月ぶりの減少となった。分譲マンションは増加したが、持家と貸家の減少が大きく影響した。

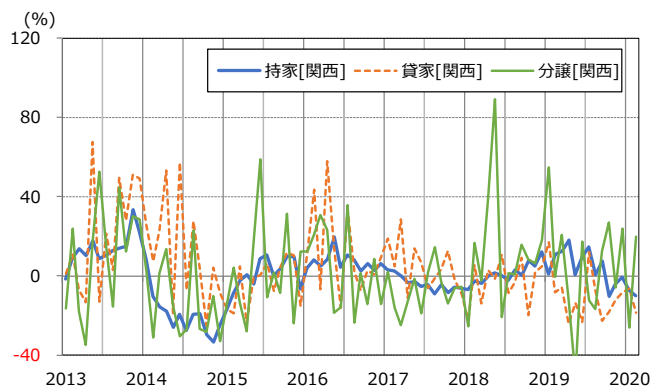
全国2月の新設住宅着工戸数は63,105戸となり、前年同月比-12.3%と8カ月連続の減少。利用関係別に見ると、持家は19,557戸(同-11.1%)と7カ月連続、貸家は22,638戸(同-18.9%)と18カ月連続、分譲も20,362戸(同-3.9%)と4カ月連続、いずれも減少となった。分譲のうち、マンションは9,353戸(同+2.4%)と4カ月ぶりに増加したものの、一戸建は10,907戸(同-7.9%)と3カ月連続で減少した。

新設住宅着工戸数の推移(前年同月比: 2013年1月~2020年2月)



(出所) 国土交通省「建築着工統計」(下図も同様)

利用関係別の推移(前年同月比: 2013年1月~2020年2月)



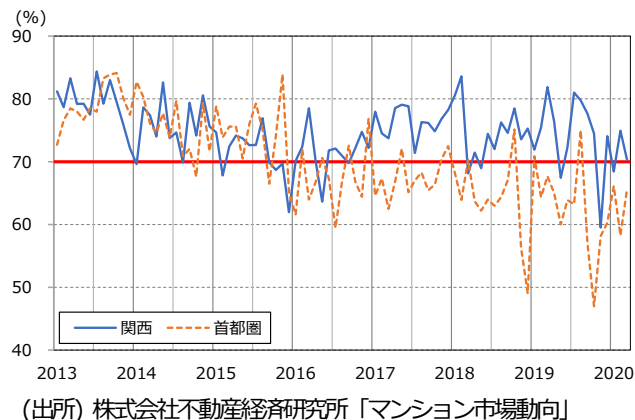
## (2) マンション市場動向

関西3月のマンション契約率(売却戸数/発売戸数)は70.3%(季節調整値: APIR 推計)と、前月から-4.6%ポイント低下した。2カ月ぶりのマイナスとなったが、好不況の境目である70%を上回った。契約率を地域別にみると(以下、原数値)、滋賀県(84.9%)、大阪府下(76.9%)が高水準となったが、

神戸市部(32.3%)、兵庫県下(53.1%)、京都市部(56.1%)などは低水準であった。

同月の首都圏のマンション契約率は65.6%(季節調整値: APIR 推計)で、前月比では+7.4%ポイントと2カ月ぶりに上昇したが、好不況の境目である70%を7カ月連続で下回った。

関西・首都圏のマンション契約率の推移(2013年1月~2020年3月)



(出所) 株式会社不動産経済研究所「マンション市場動向」

## 【雇用動向】

### (1) 求人倍率の動向

関西2月の有効求人倍率(季節調整値、受理地別)は、1.48倍で前月比-0.02ポイントと2カ月連続の悪化。有効求人数は同-2.0%で2カ月連続の減少、有効求職者数は同-0.5%で4カ月ぶりの減少。1月から求人票の記載項目が増えたことに加え、新型コロナウイルス感染拡大の影響で求人数が減少したため、全体では悪化した。

府県別に見ると、2カ月連続で全ての府県で悪化した。和歌山県は1.22倍で前月比-0.05ポイント、兵庫県は1.26倍で同-0.05ポイント、滋賀県は1.25倍で同-0.02ポイント、奈良県は1.43倍で同-0.02ポイント、京都府は1.54倍で同-0.01ポイント、大阪府は1.64倍で同-0.01ポイントと、いずれも2カ月連続で低下した。

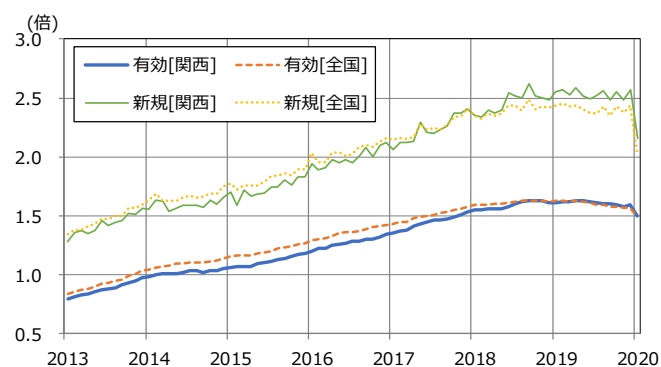
また、関西2月の新規求人倍率は2.38倍で前月比+0.22ポイント上昇し、2カ月ぶりの改善。新規求人数が同+6.2%と2カ月ぶりの増加、新規求職者数が同-3.5%と4カ月ぶりに減少したためだが、新規求人数の増加は前月の大幅減(同-



15.8%)を受けたためと考えられる。一方、前年同月比でみると、関西2月の新規求人数は-12.5%となり、2カ月連続の大幅減少(1月：同-14.3%)。産業別に寄与度をみると、卸・小売業(-2.5%ポイント)、製造業(-2.4%ポイント)、その他サービス業(-2.3%ポイント)、医療・福祉(-1.8%ポイント)、生活関連サービス(-0.9%ポイント)などでマイナス幅が大きかった。新型コロナウイルス感染拡大が雇用情勢に影響を及ぼしていると思われる。

全国2月の有効求人倍率(季節調整値)は1.45倍で前月比-0.04ポイント低下し2カ月連続の悪化。2017年3月(1.45倍)以来の低水準であった。一方、新規求人倍率は2.22倍で同+0.18ポイント上昇し、2カ月ぶりに改善した。

求人倍率(受理地別)の推移(2013年1月～2020年2月)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」(下の表も同様)

関西2府4県の有効求人倍率(2020年1月～2月)

|     | 全国    | 関西    | 滋賀県   | 京都府   | 大阪府   | 兵庫県   | 奈良県   | 和歌山県  |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 1月  | 1.49  | 1.50  | 1.27  | 1.55  | 1.65  | 1.31  | 1.45  | 1.27  |
| 2月  | 1.45  | 1.48  | 1.25  | 1.54  | 1.64  | 1.26  | 1.43  | 1.22  |
| 前月差 | ▲0.04 | ▲0.02 | ▲0.02 | ▲0.01 | ▲0.01 | ▲0.05 | ▲0.02 | ▲0.05 |

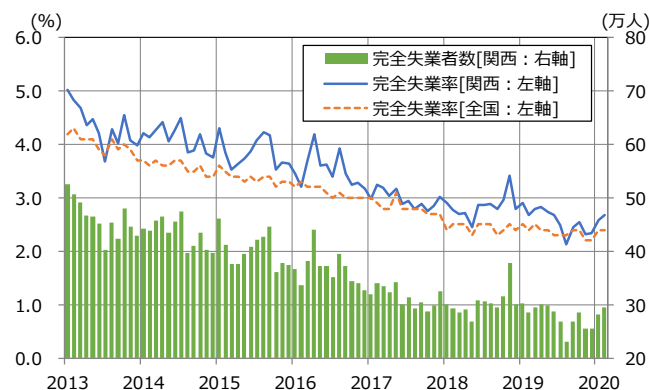
## (2) 完全失業率の推移

関西2月の完全失業率(季節調整値：APIR 推計)は2.7%と前月比+0.1%ポイント小幅上昇し、3カ月連続で悪化した。完全失業者数(季節調整値：APIR 推計)は29.6万人で前月差+1.4万人と2カ月連続で増加。労働力人口(季節調整値：APIR 推計)は前月差-4.0万人、就業者数(季節調整値：APIR 推計)は同-5.0万人といずれも2カ月ぶりに減少した。

全国2月の完全失業率(季節調整値)は2.4%と前月比横ばい。完全失業者数(季節調整値)は166万人で前月差+2万

人と2カ月連続で増加した。理由別では、「非自発的な離職」(41万人)は同+4万人、「自発的な離職(自己都合)」(73万人)は同+1万人とそれぞれ増加。一方、「新たに求職」(39万人)は同-1万人と減少した。

完全失業率の推移(2013年1月～2020年2月)



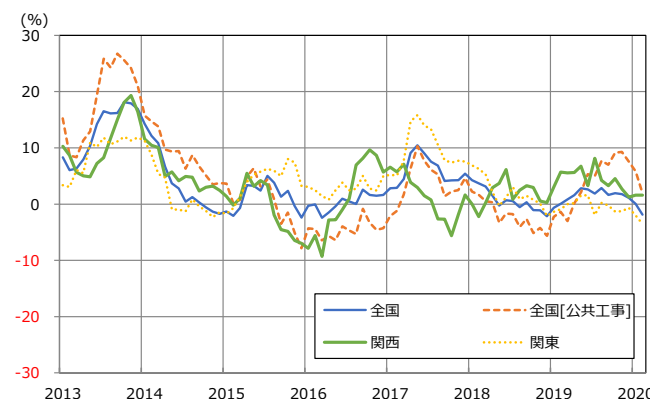
(出所)総務省「労働力調査」

## 【建設工事・公共投資】

### (1) 建設工事

関西2月の建設工事出来高は6,123億円となり、前年同月比+1.6%と24カ月連続のプラスだが、伸びは減速している。関東は1兆6,634億円で同-3.5%と6カ月連続で減少した。

建設工事出来高の推移(前年同月比: 2013年1月～2020年2月)



(注) 2016年4月分より新基準に基づく出来高の参考値を反映。

(出所)国土交通省「建設総統計」

全国2月の建設工事出来高は4兆7,215億円と、前年同月比-1.9%と小幅ながら13カ月ぶりに減少した。うち、公共工事は2兆534億円で同+2.0%と11カ月連続の増加と

なったが、民間工事は2兆6,681億円で同-4.7%と、6カ月連続で減少となった。

## (2) 公共工事請負金額

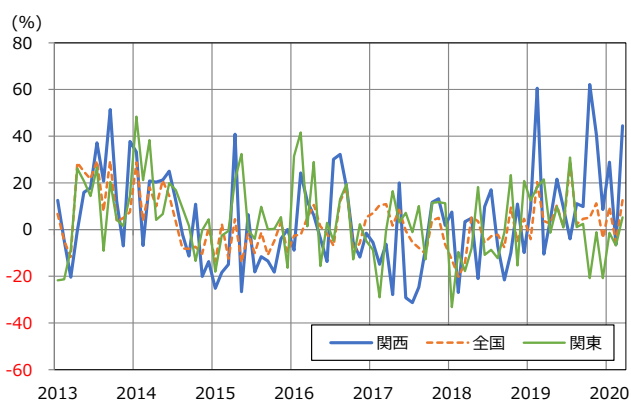
関西3月の公共工事請負金額は1,579億円で前年同月比+44.5%と、2カ月ぶりの増加。季節調整値(APIR推計)で見ると前月比+32.4%と2カ月ぶりの増加となった。

結果、1-3月期を見ると、関西の請負金額は3,247億円で、5四半期連続で前年同期比増加となった。また、季節調整値(APIR推計)で見ると、前期比-5.6%と2四半期ぶりの減少となった。

関東は3,882億円で前年同月比+5.3%と6カ月ぶりの増加。全国は1兆4,870億円で同+12.9%と2カ月ぶりの増加となった。季節調整値(APIR推計)で見ると、関東は前月比+11.6%と2カ月連続の増加、全国は同+13.7%と2カ月ぶりの増加となった。

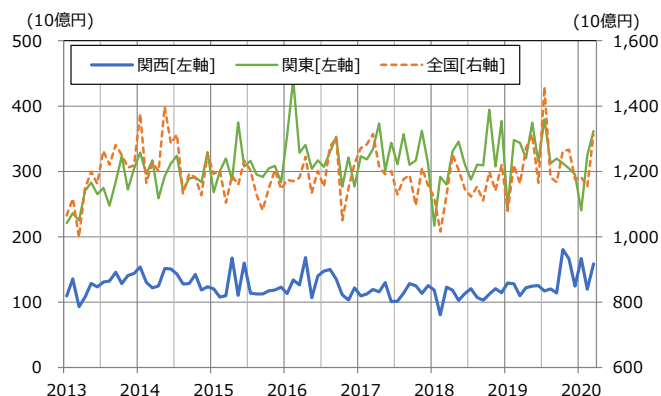
結果、1-3月期の関東の請負金額は前年同期比+0.6%と2四半期ぶりの増加、季節調整値(APIR推計)では前期比+1.5%と2四半期ぶりの増加となった。全国は、6四半期連続で前年比増加(+7.1%)だが、季節調整値(APIR推計)では2四半期連続で前期比減少(-1.4%)となった。

公共工事請負金額の推移(前年同月比: 2013年1月~20年3月)



(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

公共工事請負金額(季調値)の推移(2013年1月~20年3月)



(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

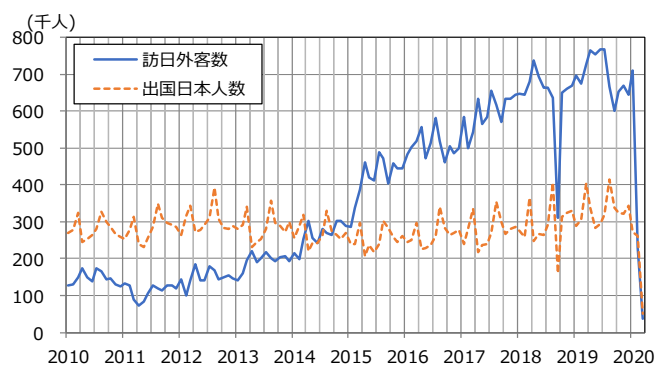
## 【関空モニター】

### (1) 訪日外客数トレンド

3月の関空への外国人入国者数は、3万5,920人で比較可能な2007年以降で過去最低の水準。伸びは前年同月比-95.1%大幅減少し、前月の同-66.0%に続き大幅マイナスとなった。新型コロナウイルスの感染拡大による世界的な移動制限が影響した。外務省は3月25日に全世界を対象に渡航レベルを史上初のレベル2(不要不急の渡航自粛)に引き上げ、31日には49カ国・地域に対しレベル3(渡航中止勧告)にまで引き上げた。しばらく高水準の警戒(アラート)が続こう。また、外国人出国者数は5万7,460人で同-91.5%と2カ月連続の減少。結果、外国人出入国者数は9万3,380人で同-93.3%と2カ月連続で大幅減少した。

日本人出国者数は5万900人で、前年同月比-87.4%と3カ月連続で減少した。

訪日外客数と出国日本人数の推移(2013年1月~20年3月)



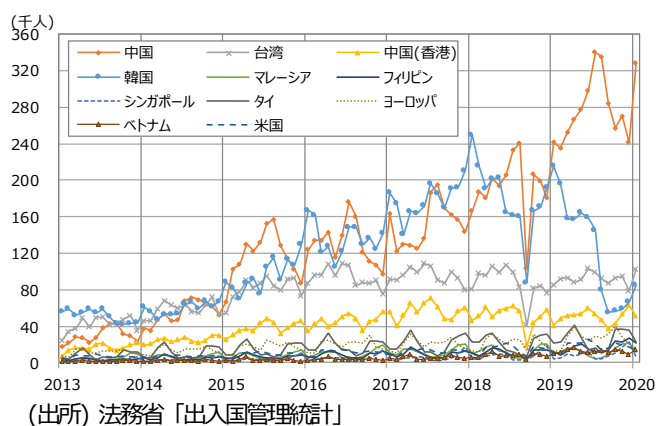
(出所)一般財団法人関西空港調査会「KANSAI 空港レビュー」

## (2) 地域別訪日外客数

1月の関空訪日外客数を国籍別・地域別にみると、中国(香港除く)からの入国者が32万8,191人(前年同月比+35.9%)と最多であった。次いで、台湾が10万2,205人(同+19.6%)、韓国が8万5,174人(同-60.4%)、香港が5万1,421人(同+25.4%)であった。中国は16カ月連続、台湾は7カ月連続、香港は3カ月連続の前年比増加だが、韓国は20カ月連続で同減少した。

他のアジア各国は、タイが2万2,458人(前年同月比+5.8%)、フィリピンが2万1,905人(同+92.9%)、ベトナムが1万4,106人(同+40.2%)、マレーシアが1万1,684人(同+19.6%)、シンガポールが6,237人(同+55.7%)であった。アジア以外の地域では、欧州全体が1万5,941人(同+20.8%)、米国が1万2,756人(同+14.8%)であった。

地域別訪日外客数(2013年1月~20年1月まで)



## 【中国景気モニター】

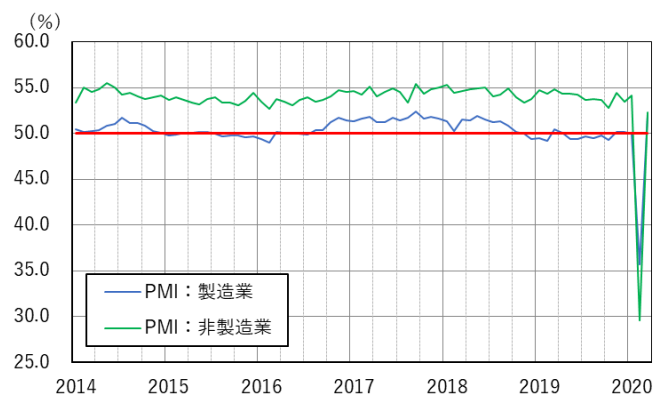
### (1) センチメント

3月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は52.0となり、前月から+16.3%ポイント上昇した。非製造業PMIは52.3となり、同+22.7%ポイント上昇し、2カ月ぶりの改善。

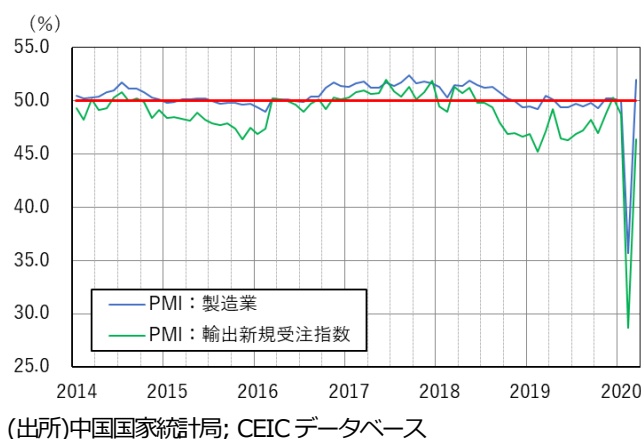
製造業PMIのうち、生産指数は54.1と前月から+26.3%ポイント上昇し、3カ月ぶりの改善。輸出新規受注指数は46.4と同+17.7%ポイント上昇だが、3カ月連続で景気分岐点を

下回った。雇用指数は50.9で2カ月ぶりに改善し、17年3月(50)以来、景気分岐点を上回った。

製造業・非製造業購買担当者景況指数(2014年1月~2020年3月)



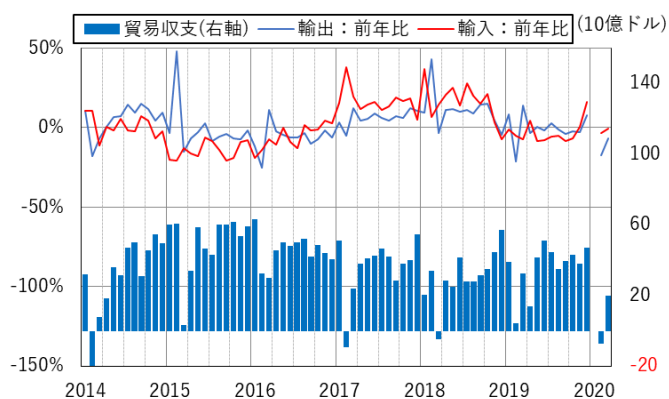
製造業購買担当者景況指数(2014年1月~2020年3月)



### (2) 貿易動向

3月の貿易収支は198.99億ドルで2カ月ぶりの黒字となった。輸出額(速報値, ドル・ベース)は1,851.5億ドルで前年同月比-6.8%、輸入額は1,652.5億ドルで同-0.4%となった。減少幅はいずれも前月から縮小した。貿易総額(輸出+輸入)は同-3.9%となった。

中国の貿易動向(ドル・ベース, 2014年1月~2020年3月)

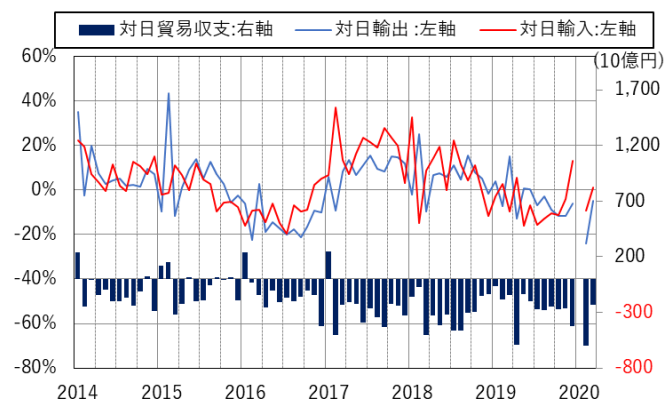


(出所)中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

### [地域別貿易状況]

地域別にみると、3月の対日貿易収支は-21.9億ドルとなり、38カ月連続の赤字となった。対日輸出額は125.8億ドルとなり、前年同月比-1.4%と7カ月連続の減少。対日輸入額は147.6億ドルとなり、同+4.8%で3カ月ぶりの増加。なお、円ベースでみると、対日輸出額は同-4.9%と9カ月連続の減少。また、対日輸入額は同+1.1%と3カ月ぶりの増加であった。

日本との貿易(円ベース, 2014年1月~2020年3月)



(出所)中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

対ASEAN貿易黒字は90.6億ドル(前月:33.4億ドル)となり、輸出額(329.8億ドル)、輸入額(239.2億ドル)と、それぞれ前年同月比+7.7%(3カ月ぶり)、同+10.5%(13カ月連続)増加した。

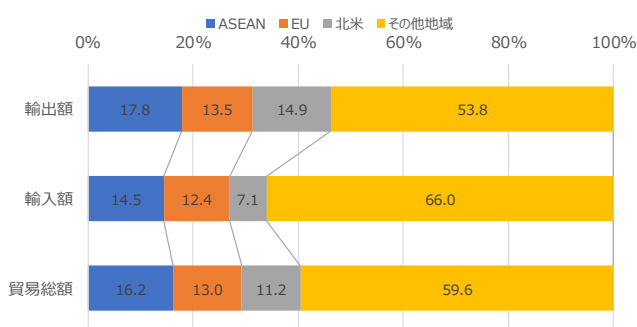
対米貿易黒字は153.2億ドル(前月:253.7億ドル)となり、前年同月比-25.3%で9カ月連続のマイナス。対米輸出額は

252.1億ドルと同-20.8%で、12カ月連続の減少。また、対米輸入額は98.9億ドルとなり、同-12.6%と5カ月ぶりの減少であった。

対EU貿易黒字は45.0億ドル(前月:105.8億ドル)となり、輸出額(250.6億ドル)、輸入額(205.6億ドル)と、それぞれ前年同月比-24.2%(3カ月連続)、同-6.5%(3カ月連続)で減少した。

地域別輸出額において、多くの国・地域が減少する中、対ASEAN向けのみがプラスの伸びとなった。主要地域別に構成比をみると、輸出額、輸入額、貿易総額のいずれもASEANのシェアがEUや北米を上回っており、ASEANの貿易相手先としての重要性が高まっている。

中国の主要貿易地域の構成比(2020年3月)



(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

### (3) 工業生産

3月の工業生産は前月比+32.1%上昇し、伸びは前月から+57.0%ポイント加速した。また、前年同月比は-1.1%となり、2019年12月(同+6.9%)からマイナスに転じた。

産業別に見ると、医薬製造業(前年同月比+10.4%)、パソコン・通信設備製造業(同+9.9%)、食品製造業(同+5.7%)など医療、民生物資の生産が高い伸びを示す一方、鉄鋼などの製錬・圧延加工業(同+4.1%)、有色金属圧延加工業(同+2.8%)、化学原料・化学製品製造業(同+0.7%)、鉄道・輸送機器製造業(同+0.5%)などは比較的低調な伸びにとどまった。また、自動車製造業は同-22.4%と大幅な減少が見られ、上記以外の産業はそれぞれ同-0.4%~同-5.5%の減産となった。



工業生産指数(2014年1月~2020年3月)



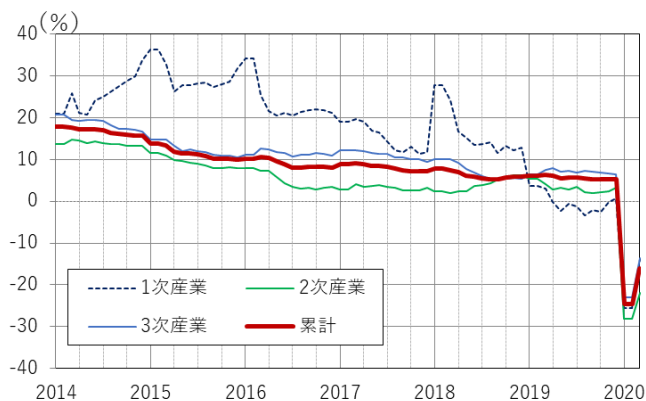
(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

#### (4) 固定資産投資

1-3 月の累積固定資産投資(名目)は前年同期比-16.1%となり、1-2 月期のマイナス幅(同-24.5%)から+8.4%ポイント改善した。

産業別にみると、第1次産業は前年同期比-13.8%下落し、下落幅は前月から+11.8%ポイント改善した。第2次産業は同-21.9%と下落幅は前月から+6.3%ポイント改善した。第3次産業は同-13.5%で、下落幅は前月から+9.5%ポイント改善した。

固定資産投資(産業別)累積伸び率(2014年1月~2020年3月)



(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

#### (5) 消費

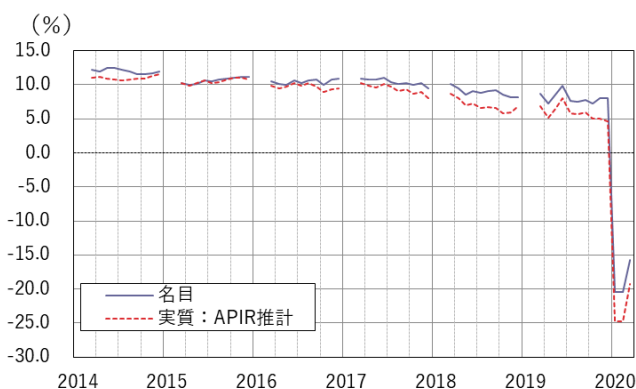
3月の社会消費品小売総額(名目)は前年同月比-15.8%となり、前月から+4.7%ポイント改善したものの、戻りは遅い。

また、社会消費品小売総額の実質値(APIR 推計)をみると、下落幅は同-19.3%と前月から+5.5%ポイント改善した。

都市部の社会消費品小売総額は前年同月比-15.9%となり、下落幅は前月から+4.8%ポイント改善した(4カ月ぶり)。農村部の社会消費品小売総額は同-15.1%で下落幅は前月から+3.9%ポイント改善した(4カ月ぶり)。

3月の電子商取引の社会消費品小売総額は8,457.0億円で、前年同月比は+0.7%であったが、伸びは前月から+2.7%ポイント上昇した。

社会消費品小売総額(2014年1月~2020年3月)



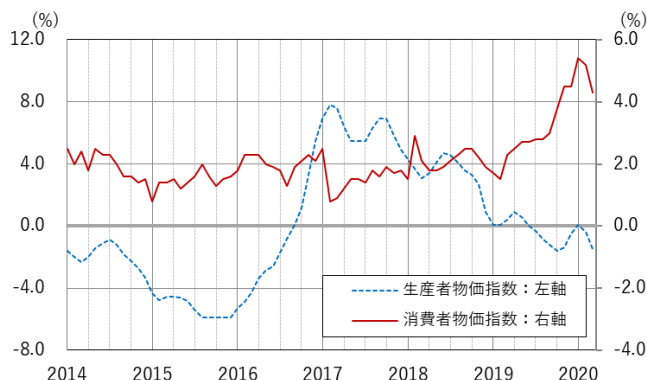
(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

#### (6) 物価水準

3月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比+4.3%で、前月から-0.9%ポイント下落した(2カ月連続)。うち、食品価格は同+18.3%上昇し、CPIへの寄与度は+3.7%ポイントであった。食料品のうち、肉類価格の大幅上昇が続いている。豚肉価格は同+116.4%上昇し、牛肉、羊肉、鶏肉、鴨肉、卵の価格は同+10.7%~+21.7%の上昇だが、野菜価格は同-0.1%、果物価格は同-6.1%下落した。

また、生産者物価指数(PPI)は、前年同月比-1.5%と2カ月連続の下落。下落幅は-1.1%ポイントと前月(同-0.5%ポイント)から拡大した。うち、生産財(生産資料)価格は同-2.4%下落し、下落幅は1.4%ポイント拡大した。消費財(生活資料)価格は同+1.2%上昇し、前月から-0.2%ポイント減速した。

消費者物価指数・生産者物価指数(2014年1月～2020年3月)

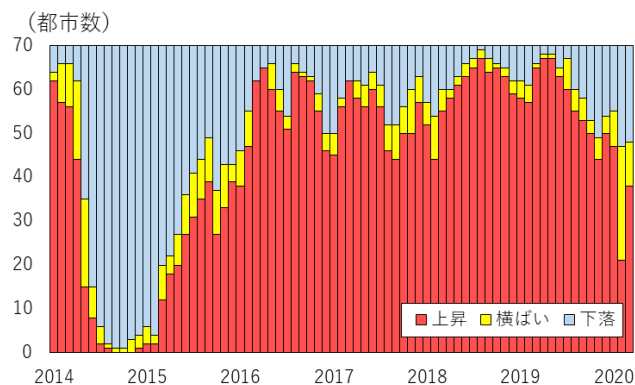


(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

## (7) 不動産市場

3月の不動産市場は、前月から幾分回復した。不動産価格(新築住宅価格)をみると、中国主要70都市のうち、住宅価格が上昇した都市数は38で前月から17都市増加した(3カ月ぶり)。一方、下落した都市数は22で前月から1都市減少(2カ月ぶり)。また、横ばいの都市数は10で前月から16都市減少した(3カ月ぶり)。

新築住宅価格の主要都市集計(2014年1月～2020年3月)



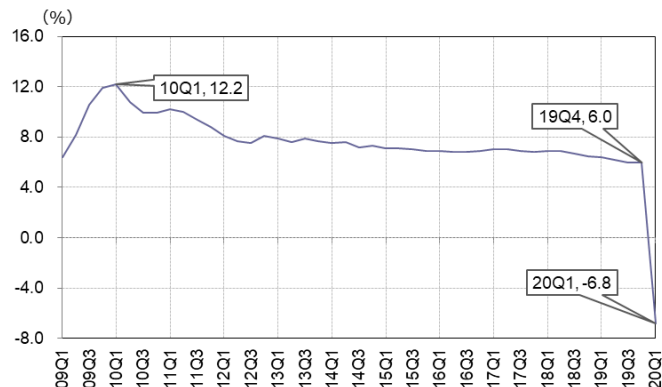
(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

## (8) GDP

中国のGDPは四半期統計が利用可能な1992年以降で初めてのマイナスとなった。1-3月期の実質GDP成長率は前年同期比-6.8%で、2019年10-12月期から-12.8%ポイント減速した。一方、前期比は-9.8%で、前年10-12月期より-11.3%ポイント減速した。

産業別に見ると、1-3月期の第1次産業の成長率は前年同期比-3.2%と伸びは前期から-6.6%ポイント下落し、2四半期ぶりの減速。第2次産業は同-9.6%と前期から-15.4%ポイント下落し、2四半期ぶりの減速。第3次産業は同-5.2%と、前期から-11.8%ポイント下落し、2四半期連続の減速であった。

実質GDP成長率の推移(2009年Q1～2020年Q1)



(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

## (9) 新型コロナウイルス感染拡大の影響

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、1月下旬から2月にかけて経済活動はほぼ停止した。湖北省以外の地域は2月中旬から工場の操業や店舗の営業が徐々に回復しており、湖北省も3月15日以降、徐々に回復に向かっている。4月17日まで、湖北省の一定規模(年商2,000万元)以上工業企業生産再開率と職場復帰率は、それぞれ98.2%と93%に達したが、中小企業の生産再開率は80%を下回り、生産活動は未だに平時の水準に至っていない。

消費について、食料品や日用品など生活必需品はインターネットを通じて調達され、映画館、飲食店など店舗の利用は平時より大幅減少している。現在、各地政府は、市民に健康コードを発行している。登録された情報によって一定の範囲は自由に移動できるが、広範囲、長距離の移動には隔離措置を講じる地域がまだある。

固定資産投資もリーマンショック期より落ち込んでいる。国家发展改革委员会は新型インフラ建設の投資拡大を公表しており、これから投資は持ち直す可能性が高い。一方で、新型

コロナウイルスの影響の長期化によってサービス業への投資は冷え込む可能性がある。

また、3月から北米とEUでは爆発的な感染拡大が相次いでいる。主要国政府は、経済活動を抑制する政策を講じざるを得ない状況である。1～2月の生産停止による供給不足は徐々に解消しているが、世界経済の後退による外需の縮小は今後一層中国経済下押し要因となろう。

---

Contact : 木下祐輔・野村亮輔

Tel. 06-6485-7694

E-mail. [contact@apir.or.jp](mailto:contact@apir.or.jp)

---





## Release Calendar for March/April

| Monday                                           | Tuesday                                                                                                                     | Wednesday                                          | Thursday                                       | Friday                                                                                                                          |
|--------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 23-Mar                                           | 24-Mar                                                                                                                      | 25-Mar<br>出入国管理統計<br>(1月)                          | 26-Mar<br>近畿地域<br>鉱工業生産動向<br>(1月:確報)           | 27-Mar<br>全国貿易統計<br>(1月:確報)<br>全国貿易統計<br>(2月:確速)                                                                                |
| 30-Mar                                           | 31-Mar<br>全国鉱工業指数<br>(2月:速報)<br>商業動態統計<br>(2月:速報)<br>一般職業紹介状況<br>(2月)<br>労働力調査(2月)<br>建築着工統計調査<br>(2月)<br>中国製造業 PMI<br>(3月) | 1-Apr                                              | 2-Apr                                          | 3-Apr                                                                                                                           |
| 6-Apr<br>消費動向調査<br>(3月)                          | 7-Apr<br>毎月勤労統計調査<br>(1月:確報)<br>毎月勤労統計調査<br>(2月:速報)<br>百貨店・スーパー販売<br>状況(2月:速報)                                              | 8-Apr<br>景気ウォッチャー調査<br>(3月)                        | 9-Apr                                          | 10-Apr<br>近畿地域<br>鉱工業生産動向<br>(2月:速報)<br>近畿圏貿易概況<br>(1月:確報)*<br>近畿圏貿易概況<br>(2月:確・速報)*<br>中国 CPI(3月)                              |
| 13-Apr                                           | 14-Apr<br>中国輸出入<br>(3月:速報)                                                                                                  | 15-Apr<br>商業動態統計<br>(2月:確報)<br>公共工事前払金<br>保証統計(3月) | 16-Apr<br>マンション市場動向<br>(3月)<br>中国不動産市場<br>(3月) | 17-Apr<br>全国鉱工業指数<br>(2月:確報)<br>出入(帰)国者数<br>(3月)<br>中国 GDP<br>(1-3月期)<br>中国工業生産<br>(3月)<br>中国消費小売総額<br>(3月)<br>中国固定資産投資<br>(3月) |
| 20-Apr<br>全国貿易統計<br>(3月:速報)<br>近畿貿易統計<br>(3月:速報) | 21-Apr<br>毎月勤労統計調査<br>(2月:確報)<br>建設総合統計<br>(2月)                                                                             | 22-Apr                                             | 23-Apr                                         | 24-Apr<br>出入国管理統計<br>(2月)<br>近畿地域<br>鉱工業生産動向<br>(2月:確報)                                                                         |

\*印は発表予定日が未定。 \*\*公表日は翌日。